

第45回学術集会 開催報告

令和6年2月17日（土）に、総合療育センター 第45回学術集会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症のため、この数年間はwebで開催していた学術集会ですが、今年度は5年ぶりに小倉南生涯学習センターにて対面で開催することができました。

今回は、療育センターおよび西部分所、特別支援教育相談センターより、14演題の口述発表がありました。

特別講演 兼 福岡県小児等在宅医療多職種研修会として大阪発達総合療育センター センター長の船戸正久先生をお迎えして、『療育施設が行う在宅支援とは？「医療モデル」から「生活モデル」へ ～多職種協働・多施設協働で行う重症児者の地域包括支援～』というテーマでご講演いただきました。

NICU等から自宅に退院する際の間施設としての取り組みをはじめ、「大阪市医療コーディネート事業」、「地域かかりつけ医紹介事業」など、大阪市の現状ならびに取り組みについてお話いただきました。

大阪市では事業が始まったことで、病院や専門病院だけでなく地域の診療所の先生方が障害児医療に関わるようになり、風邪などの一般的な病気の場合には、かかりつけ医として診療所に通院するという割合が増えたとのことでした。事業の目的は、「急病時対応とかかりつけ医」という在宅生活で一番困っていることへの対応とのことでしたが、北九州地域にも通ずるものがあります。

今回先生のお話は、一つひとつ丁寧に具体的にお話くださり、とても分かりやすい講演でした。先生のお話によって、職種を超えて当センターの多くのスタッフに力を与えていただき、現状の課題整理ならびに前向きに仕事に向き合えるとても有意義な時間となりました。

また、座談会として、「総合療育センターの役割と今後の方向性」というテーマで、松尾前所長、鳥越所長、奈須西部分所長より、療育センターの変遷を含めたお話しがありました。

今回の学術集会は、口述発表、特別講演、座談会の3部構成で非常に中身の濃い一日となりました。

大阪から足を運んでいただいた船戸先生、どうもありがとうございました。